

会議録

会議の名称	令和2年度第2回 西東京市緑化審議会
開催日時	令和2年8月21日(金) 13時00分(13時40分)から15時00分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎4階 第1、2委員会室 ※WEB会議システムにより、エコプラザ西東京とオンライン参加の委員をつなぎ、会議を開催した。
出席者	委員:伊藤会長、飯田委員(オンライン参加)、椎名委員、蓮見委員、亀田委員、細川委員(欠席)、佐藤委員(途中参加)、中村委員(欠席)、池田委員(欠席)、大矢委員、加藤委員、古賀委員、梅原委員、加納委員、田巻委員 事務局:みどり環境部長 青柳、みどり公園課長 渡邊、みどり公園係長 安達、みどり公園係主任 高島 支援委託業者:ランドブレイン(株) 宮脇、平田
議題	1 西東京市緑化審議会の運営方法について 2 会議録形式の決定について 3 傍聴の取り扱いについて 4 下保谷四丁目特別緑地保全地区の保全活用計画策定について 5 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市緑化審議会委員・事務局職員名簿 資料2 諮問書「下保谷四丁目特別緑地保全地区の保全活用計画について」(写) 資料3 西東京市緑化審議会の運営について 資料4 下保谷四丁目特別緑地保全地区の概要 資料5 下保谷四丁目特別緑地保全地区の保全活用(答申) 資料6 令和元年度の調査報告 資料7 下保谷四丁目特別緑地保全地区の保全活用計画策定スケジュール(案)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>※審議会の開催にあたり、委員の委嘱、会長と職務代理者の決定、市長から審議会への諮問を実施</p> <p>開会 (会長) 第2回西東京市緑化審議会を開催する。 議題の前に令和2年度第1回緑化審議会会議録(案)について事務局より説明をお願いする。 ～事務局より会議録(案)の説明～ (会長) 異議がなければ、会議録として承認したい。</p> <p>(委員)</p>	

異議なし。

1 西東京市緑化審議会の運営方法について

2 会議録形式の決定について

3 傍聴の取り扱いについて

～事務局より資料3の説明～

(会長)

ご質問、ご意見等がないようなので、事務局の説明のとおり、会議録形式は、発言者の発言内容ごとの要点記録、傍聴人は5名としたい。

(委員)

異議なし。

4 下保谷四丁目特別緑地保全地区の保全活用計画策定について

～会長より、下保谷四丁目特別緑地保全地区の保全活用に関する経緯について説明～

～事務局より資料4～7について説明～

(会長)

昨年度と同様に、今年度も各分野の専門家による小委員会の活動と連携しながら進めていきたい。

11月下旬から12月上旬にかけて、紅葉会を実施したいと考えている。オンサイト(現地)でのイベントができるかは分からないが、市民に向けて情報を発信する場としたい。

活動レポートの創刊号については、中面見開きのページで屋敷林に関わる様々な人たちの紹介をしたいと考えており、裏面で屋敷林が地域の宝であることをイメージしていただけるような記事を掲載している。なお、小委員会以外の審議会委員の方などからもコメントをいただき、反映させて完成としたい。紙媒体による発信だけでなく、インターネットを活用した発信も検討していきたい。

活動紹介パネルは、今後の活動レポートの各号で特集していけるような内容となっている。順次、「ヤンキリン通信」として発行していきたい。各委員より、活動レポートについて、一言ずつ補足していただきたい。

(委員)

昨年度は、微気候と雨水の浸透について調査し、屋敷林がクールスポットとなっていること、緑のダムとして高い雨水浸透機能を有していることが分かった。また、農家への意識調査を実施するなかで、暑熱緩和効果は認識されているものの、洪水緩和効果についてはあまり認識されていないことが分かった。市民に屋敷林の価値を伝えていくことの大切を改めて認識した。

(委員)

活動紹介パネルでは、一般的な屋敷林について紹介している。樹木調査が終わったの

で、解析を進めていきたい。解析結果が出たら、下保谷の屋敷林の特徴について語ることができると思う。

(会長)

樹木調査には、高橋家屋敷林保存会の方々にご協力いただいているが、調査に関わる立場から一言いただきたい。

(委員)

樹木調査については、専門的な知識がないため、椎名先生に指導いただきながら実施している。

(会長)

専門家が調査を行うだけではなく、市民の方々が調査に関わっているということに意味があると思う。市民でも調査ができるように、委員には調査内容や方法を工夫いただいたのではないかと考えている。調査に関わった市民の方々については、屋敷林に対して新しい見方ができるような人材に育っているのではないか。

(委員)

旧高橋家屋敷林について、「祈り」と「暮らし」をキーワードに、地域の歴史や文化を交えながらまとめた。「祈り」に関して、天神社の調査で明らかになった饅絵の龍を取り上げたり、「暮らし」に関して、藍の文化や藍染体験の様子を紹介したりしている。今後は、「武蔵野」や「白子川流域」という大きなスケールや、あるいは「下保谷の屋敷林」に絞ったスケールで捉えていきたいと考えている。

(委員)

屋敷林は、街なかの貴重なグリーンインフラだと思う。旧高橋家屋敷林は、これまで私有地であったこともあり、まだまだ市民に認知されていない。地域に開かれた場にしていくためには、先程の市民参加による樹木調査などは非常に重要であり、そのような機会を通じて愛着を持っていただいたり、知識を身に付けていただいたりしている。

コロナ禍により身近な緑が見直されつつあると感じている。まちに開かれた緑、まちにつながっている緑というイメージを持ってもらえるように取り組んでいきたいと考えている。

(会長)

コロナ禍のなかで、地域での暮らしをより意識するようになってきている。「下保谷」や「荒屋敷」、「白子川流域」など、多面的なスケールのなかで、屋敷林を捉えてみたいと考えている。

5 その他

(会長)

ご説明いただいたように、調査の結果はストックしつつあるものの、コロナの影響により、さまざまなイベントが中止になっているという状況がある。そこで、オンラインによる情報発信についても検討していく必要があると考えている。

～支援委託業者よりオンラインによる情報発信についての情報提供～

(会長)

例えば、ヤシキリン通信の記事をウェブマガジンとして発信したり、高橋家屋敷林保存会の活動の様子をインターネットで公開したりしてはどうかと考えている。活動の様子を知ってもらうことによって、活動の輪を広げていきかけとしたい。屋敷林でどのようなことをしてみたいか企画を募っても面白いのではないか。

(委員)

私が関わっている公園では、オンラインセミナーの開催や季節の見どころを紹介するショートムービーの作成に取り組んでいる。各分野の専門の方に、活動や調査結果を簡単に紹介してもらい、動画にするのもよいのではないか。

屋敷林の保全について、私が関わっている「Green Connection TOKYO」とリンクさせるのも一つの手段だと思う。西東京市のなかでの盛り上げはもちろん、外部から評価されるように発信していくのも大切だと思う。

(委員)

高橋家屋敷林保存会の活動状況の発信について会長より話があったが、会員が高齢化しており、新しい参加者が少ないのが現状だ。人材確保の面からも、ぜひ、情報発信に取り組んでいきたい。

一方で、屋敷林はこれまで活動してきた地元でもある。地元の繋がりも大切にしながら、地域の資源として保全活用を進めていきたい。

(会長)

高橋家屋敷林保存会の活動を地域住民の方々が見ることだけでも学びにつながるのではないかと考えている。保存会の活動自体が地域の資産と言えると思う。

(委員)

私も、下保谷四丁目特別緑地保全地区のすぐそばで生まれ育ったが、「おかしらの家」という名前で親しまれていた。屋敷林の保存が難しい状況にある中で、下保谷四丁目特別緑地保全地区だけでなく、現在でも残っている屋敷林の保全にもつなげていけるように取り組んでいきたい。

閉会

(会長)

以上で、第2回西東京市緑化審議会を閉会する。

以上